

特別な支援が必要な生徒が在籍する通常学級における学級経営の実践的研究
 学級心理劇（サイコドラマ）や通信カウンセリング（レターカウンセリング）を導入して

特別支援教育班 今泉 雅史（中学校教諭）

周囲と同じような行動が
 なかなかとれない生徒



学級の中で集団とうま
 くかかわれない生徒



教師の思い

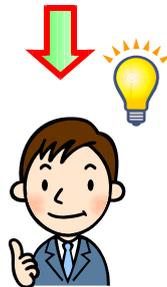
周りの子たちを温かく受け入れ、それが相互作用になって集団としての質が高まってほしい。



教師の思い

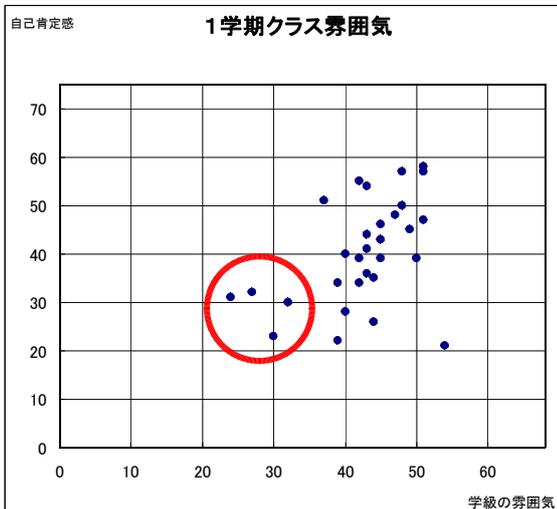
特別な支援が必要な生徒が自己肯定感を高め、生き生きわくわくした学校生活を送ってほしい。

毎日の通信カウンセリングで一人一人のコミュニケーションを図れば、信頼関係も深まり、本音や悩みを伝えるようになるのではないかな。



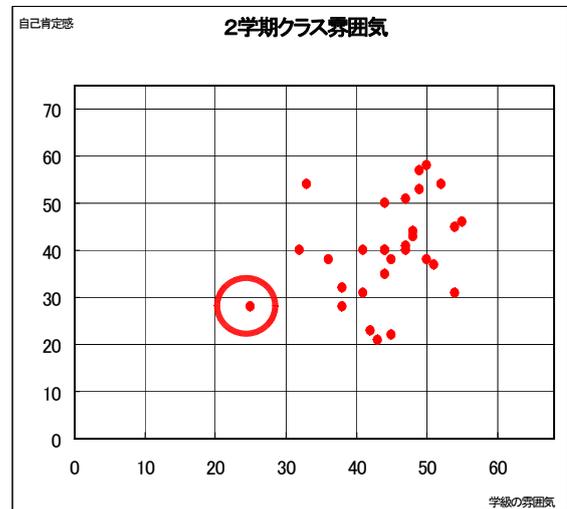
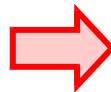
道徳の時間を中心に心理劇を取り入れて、それぞれが演技をすることで、他人の気持ちが分かり、よりよい集団を育成することができるのではないかな。

ソシオメトリックテスト、バームテスト、学級の雰囲気テストを学期ごとに実施し、その変容を見る



学級の雰囲気テストからは、上のグラフのような結果となった。これを見ると全体の雰囲気はまとまりができつつあるがまだ不足している。4人の生徒が値が低いことが分かる。

心理劇実践後



1学期と比べクラスの雰囲気、自己肯定感とも値がアップしており、学級としてのまとまりが出てきている結果となった。そして、3人の生徒の自己肯定感の数値が上がっている。

学級の雰囲気テストを1学期と2学期を比べた結果、学級の雰囲気はよくなり、個人の自己肯定感があがったことが分かった。心理劇や通信カウンセリングなど毎日の実践を通して個人の自己肯定感、学級全体の雰囲気がよくなることが検証できた。しかし、生徒会活動などで積極的に行動したり、発言できるようになったにもかかわらず、数字には表れてこない生徒がいたのは残念であった。